

2020



都市政策懇話会の様子

草津市 総合政策部 草津未来研究所

令和2年度事業報告書



オンラインによるUDCBKでの報告会の様子

目 次

| | | |
|-----|---------------------|----|
| I | 草津未来研究所について..... | 1 |
| II | 事業成果..... | 2 |
| 1 | 調査研究活動..... | 2 |
| | (1) シンクタンク機能..... | 2 |
| | (2) データバンク機能..... | 4 |
| 2 | 人材育成活動..... | 5 |
| | (1) プラットフォーム機能..... | 5 |
| 3 | 情報発信にかかる活動..... | 13 |
| 4 | その他の活動..... | 14 |
| III | 運営体制..... | 15 |

I 草津未来研究所について

草津未来研究所は2010(平成22)年4月1日に設立し、以下の目的により自治体内の研究所として活動をしている。

【目的】

草津市の未来を見据えた創造力ある政策を提案し、草津市の政策審議機能の充実に寄与する。

【活動】

草津未来研究所の活動は、本市の政策課題に即しながら、課題解決や政策立案等の政策形成に結びつく調査研究活動と、職員の政策形成能力の向上および草津市の未来を担う人材育成を目指す人材育成活動の2本柱で運営している。また、これまでの活動に対する評価を踏まえ、現在は「シンクタンク機能」と「プラットフォーム機能」の2つの機能に重点を絞った展開を図っている。

| | | |
|------------|--------------|-------------------------------------|
| 調査研究 活動 | ① シンクタンク機能 | ・実践的で戦略的な政策提案 |
| | ② データバンク機能 | ・政策情報の収集・分析・蓄積・発信 ・政策情報の指標化・論点整理 |
| | ③ コンサルティング機能 | ・担当課の業務支援(平成30年度から休止) |

| | | |
|------------|--------------|--|
| 人材育成 活動 | ① プラットフォーム機能 | ・市民(地域)と学生との連携を生み出す場の形成等 ・アーバンデザインセンター ¹ びわこ・くさつ(UDCBK)の事業運営 |
| | ② トレーニング機能 | ・調査研究活動を通じた人材育成(令和元年度から休止) |

¹ アーバンデザインセンターは、行政都市計画や市民まちづくりの枠組みを超え、地域に係る各主体が連携し、都市デザインの専門家が客観的立場から携わる新たな形のまちづくり組織や拠点として、2019(令和元)年12月現在、全国21の拠点で展開している(UDC Initiative HP参照)。また、アーバンデザインセンターびわこ・くさつでは、産学公民が連携しながら、草津の未来のまちのデザインを考える取組を行っている。

Ⅱ 事業成果

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言の発令等により、各種事業については、実施方法の変更など社会状況を加味した対応を行っている。

1 調査研究活動

(1) シンクタンク機能

① 調査研究

(a) 草津市におけるデジタル技術を活用した移動に関する調査研究

近年のデジタル技術の進展は、一人ひとりの状況に応じたきめ細かいサービスの提供を可能にしており、政府も「デジタル改革関連法案」を極めて重要な法案と位置付けて、国会に提出している。特にデジタル庁の創設は、我が国の経済・社会の大きな転換につながる改革として、今までにないスピードでデジタル化に取り組む必要があるとされている。

他方、我々の日常生活においては、インターネット利用者の割合が全体の90%近くに到達している。さらには、いつでもインターネットへ接続可能なスマートフォンを保有している世帯割合が83%を超えるなど、デジタル媒体は我々の日常生活には無くてはならないものとなっている。その折、新型コロナウイルスが感染拡大したことで、移動の自粛要請等が行われ、通勤や通学、買い物などの人流や物流といった社会環境にも新たな変化をもたらしている。

時を同じくして、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律等の一部を改正する法律が、2020(令和2)年11月に施行された。この法律では、地域の移動ニーズにきめ細かく対応できるメニューの充実として、MaaSや自動運転などの新技術を用いたモビリティサービス事業が創設されており、特に、公共交通の分野においてサービスを大きく変える可能性があるMaaSについては、全国各地でそれぞれの目的に応じた実証実験等が行われ始めている。

本市においても、これらの社会背景から、これまでの様々な移動に関わる施策以外に、人口構造や地形、地域拠点といった本市の特性を踏まえ、デジタル技術やデータ等の活用を意識した取組も検討していくことが求められることから、その方策案をまとめている。

また、新たなモビリティサービス事業をはじめ、各種事業の導入検討を行う上で共通する注意すべきポイントとして、事業の構想策定の段階から、行政や交通事業者、通信関係事業者、地域住民等のステークホルダーが一つになった組織を形成し、目指すべき目標やビジョンの設定、事業主体の明確化、想定される課題解決策等を共有し、全ての関係者が同レベルの熱意を持ちながら取り組んでいくことが非常に重要である。

(b) 人口移動調査からみる各学区・地区の姿

自治体の人口は社会移動による影響が大きいことから、自治体の行政運営において、人口移動の詳細を把握することは重要である。本レポートは、住民基本台帳法に基づく届出の情報をもとに、転入・転出・転居(市内移動)について集計を行った。

本市の人口移動に関する統計はいくつかあるが、本市の学区・地区単位で集計しているものは見当たらない。そこで、本レポートでは学区・地区単位での人の移動に関するエビデンスを得ることを目的に学区・地区別に集計を行った。

また、地域の将来を見据えた計画の策定時には将来推計人口が必要である。本市では毎年住民基本台帳人口を基準に、1年毎・1歳毎の将来推計人口を算定している。将来推計人口の算定過程において、大規模な宅地開発やマンション建設に伴う転入人口の増加の影響をどのように見込むかが課題となっている。本レポートにおいて、開発に伴う入居者のデータを抽出し、転入者の旧住所に基づく分析を行うことにより、将来推計人口の精度向上に役立つエビデンスを得ることが第2の目的である。

本レポートの構成は、第1章で人口移動に関する人口学の基本的知識を整理するとともに、本調査の概要を説明している。第2章では、本市の人口移動の概要をまとめている。第3章では、学区・地区別に見た人口移動の概観を整理し、続く第4章で学区・地区別に転入、転出、転居、年齢構成について整理しまとめている。

最後の第5章では、将来推計人口の算定に関する示唆を得るため、大規模な宅地開発に関する事例と3つのマンションに関する事例を分析し、算定時の人口加算について検討している。

② 都市政策懇話会

中長期の都市づくりに関して広域的かつ横断的な視点から、その目指すべき方向性や具体的な方策について、有識者や運営会議委員(学識経験者)の「知」の活用を図り、理事者の政策判断に寄与することを目的とした懇話会を開催した。

【開催内容】

| 開催日 | 内容 |
|---------------------|--|
| 2021(令和3)年 1月13日 | テーマ「Society5.0 社会(超スマート社会)に向けて」 ・ Society5.0 社会を見据え、公共サービスにおける先端技術の積極的な活用促進など、話題提供者や学識経験者からの様々な意見を参考にして、今後の取組への手掛かりにしていく。 |

【出席者】

| 区分 | 氏名 | 役職 |
|-------|--------|-----------------------|
| 話題提供者 | 吉田 昌孝 | 草津市 ICT 戦略特別推進員 |
| 学識経験者 | 松原 豊彦 | 立命館大学食マネジメント学部教授 |
| | 戸所 隆 | 高崎経済大学名誉教授 |
| | 肥塚 浩 | 立命館大学大学院経営管理研究科長 |
| | 小沢 道紀 | 立命館大学食マネジメント学部教授 |
| 市側 | 橋川 涉 | 草津市長 |
| | 堀田 智恵子 | 総合政策部理事 |
| | 田中 祥温 | 総合政策部長 |
| | 田中 義一 | 総務部長 |
| | 長 源一 | まちづくり協働部長 |
| | 藤田 雅也 | 環境経済部長 |
| | 畑 真子 | 教育委員会理事 |
| | 南川 等 | 教育委員会副部長 |
| 事務局 | 林 裕史 | 総合政策部草津未来研究所参事 |
| | 中瀬 明美 | 総合政策部草津未来研究所(UDCBK)参事 |
| | 林沼 敏弘 | 総合政策部草津未来研究所会計年度任用職員 |

(2) データバンク機能

① 地域別人口推計

住民基本台帳人口に基づく、市域全体と学区・地区別の将来推計人口を算出した。
推計の方法：年齢毎の推移率を基本に推計(1,000㎡以上、50戸以上の開発を考慮)
基準日：各年3月31日 地域の単位：14小学校区

② 政策情報の整理

住民基本台帳に基づく人口と世帯に関するデータの追加・更新を行った。

2 人材育成活動

(1) プラットフォーム機能

① 環びわ湖大学・地域コンソーシアム

環びわ湖大学・地域コンソーシアムの「大学地域連携課題解決支援事業」として、草津市関係では下記の事業が採択された。

| 連携大学 | 自治体担当課 | 活動テーマ |
|--------------------|--------------|--|
| 立命館大学 理工学部 | 教育委員会歴史文化財課 | 「草津の魅力」を再発見！ ～草津市内に点在する歴史遺産を繋ぐ保存・活用手法の提案～ |
| 龍谷大学 理工学部 | 環境経済部商工観光労政課 | 訪日外国人旅行者(インバウンド)に向けた 草津の魅力発信～ふらっと寄りたい草津旅～ |
| 立命館大学 食マネジメント学部 | 環境経済部商工観光労政課 | 芦浦観音寺納豆再現プロジェクト |

「環びわ湖大学地域交流フェスタ 2020」の活動報告会について、長浜市内での開催を予定されていたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、オンライン報告会に変更され、2020(令和2)年12月6日開催の当該報告会に参加した。

また、「SHIGA SDGs Studios Booklet 2020」について、事務局から配付協力依頼があり、庁内各課及び副部長以上に当該ブックレットを配付した。

② 包括協定大学等との連携推進

大学等の教育機関の「知」を活かし、相互連携を図りながら地域の活性化を推進するため、草津市と包括協定等を締結している7大学1高等学校と各種事業を行った。

草津市と大学との包括協定に関する連携協力事業の実績と計画 集計

| | 令和元年度実績 | | | | | | | | | 令和2年度計画 | | | | | | | | |
|----------|---------|------|--------|-------|--------|--------|------|----------|-----|---------|------|--------|-------|--------|--------|------|----------|-----|
| | 立命館大学 | 滋賀大学 | 成安造形大学 | 京都橋大学 | 滋賀県立大学 | 滋賀医科大学 | 龍谷大学 | 湖南農業高等学校 | 合計 | 立命館大学 | 滋賀大学 | 成安造形大学 | 京都橋大学 | 滋賀県立大学 | 滋賀医科大学 | 龍谷大学 | 湖南農業高等学校 | 合計 |
| イベント協力 | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 5 | 16 | 8 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 7 | 16 |
| インターンシップ | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 共催・後援事業 | 13 | 4 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 0 | 23 | 12 | 4 | 1 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 | 21 |
| 業務委託 | 5 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 | 5 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 9 |
| 講師依頼 | 6 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 10 | 3 | 1 | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 | 9 |
| 審議会等委員依頼 | 54 | 12 | 3 | 8 | 14 | 4 | 18 | 3 | 116 | 58 | 10 | 4 | 8 | 12 | 5 | 22 | 4 | 123 |
| 補助事業 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| その他 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 4 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 5 |
| 合計 | 93 | 16 | 4 | 14 | 15 | 6 | 20 | 12 | 180 | 93 | 16 | 6 | 13 | 13 | 9 | 22 | 16 | 188 |

③ アーバンデザインセンターびわこ・くさつ(UDCBK)事業

(a) アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ(UDCBK)事業の運営方針の検討、運営状況の確認等を行うとともに、法人化の妥当性について助言をいただくことを目的に設置した。

【アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会委員】

| 区分 | 氏名 | 所属・役職 |
|-------|-------|--|
| 座長 | 肥塚 浩 | 立命館大学大学院経営管理研究科長・草津未来研究所顧問 |
| 副座長 | 加藤 幹彦 | 草津商工会議所専務理事 |
| 委員 | 及川 清昭 | 立命館大学理工学部特命教授・キャンパス計画室長 (アーバンデザインセンターびわこ・くさつセンター長) |
| | 武田 史朗 | 立命館大学理工学部都市デザイン学科教授・キャンパス計画室副室長 (アーバンデザインセンターびわこ・くさつ副センター長) |
| | 田畑 泉 | 立命館大学 BKC 地域連携室長 (スポーツ健康科学部教授) |
| | 田中 浩子 | 立命館大学食マネジメント学部教授 |
| | 神部 純一 | 滋賀大学教育学部教授 |
| | 阪本 崇 | 京都橘大学副学長 (京都橘大学現代ビジネス学部教授) |
| | 秦 憲志 | 滋賀県立大学地域共生センター主任調査研究員 |
| | 松浦 昌宏 | 滋賀医科大学研究戦略推進室産学連携推進部門長 特任教授 |
| | 深尾 昌峰 | 龍谷エクステンションセンター・センター長 (龍谷大学政策学部教授) |
| | 伊庭 健治 | 草津市まちづくり協議会連合会副会長 |
| | 有村 敬三 | パナソニック株式会社アプライアンス社 人事・総務センター総務部総務一課長 |
| | 片岡 一明 | 株式会社滋賀銀行草津支店長 |
| | 内山 礼子 | 公募委員 |
| | 亀石 弥都 | 公募委員 |
| 北村 亜耶 | 公募委員 | |
| 松井 栄里 | 公募委員 | |

任期：令和2年6月1日～令和4年5月31日

【アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会の開催】

| | 開催日 | 内 容 |
|-----|--------|--|
| 第1回 | 7月8日 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和元(2019)年度事業実施事業実績 ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止に係る対応等 ・令和2(2020)年度実施予定事業 |
| 第2回 | 10月22日 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和2(2020)年度実施事業(中間報告) ・南草津エリアまちづくり推進懇話会 ・with/after コロナのまちづくりについて |
| 第3回 | 2月24日 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度事業実施状況について ・令和3年度実施予定事業について |

(b) 都市デザイン連携プロジェクト

南草津駅周辺の公園を中心としたまちづくりを進めるために、南草津駅に隣接し土地区画整理事業を進めている「南草津プリムタウン内の1号公園」において、社会実験準備事業として「住民参加の新しい公園づくりー南草津プリムタウンの公園中心型コミュニティデザインを目指すための社会実験」事業に取り組んでいただいた。また、「みなくさまちライブラリー」では、コロナ禍で学生の活動に規制がかかり思うように進められなかったものの、学生が自主的に次の担い手を作り、情報発信を中心に公共空間での実践に向けた進め方について考えた。

【南草津プリムタウン】

| 提案大学 | 概 要 |
|--------------------|--|
| 立命館大学 ^② | 住民参加の新しい公園づくりー南草津プリムタウンの公園中心型コミュニティデザインを目指すための社会実験 |

(c) 都市と交通プロジェクト

・市民参加のワークショップ

令和元年度に立命館大学、滋賀県、草津市都市計画部、UDCBK で、都市と交通シナリオスタディ研究会を開催し、2040年の南草津駅周辺の将来像を複数のシナリオとして描く中で、交通インフラを含む望ましい都市空間のあり方を提言する取組について準備的な議論を進めた。

令和2年度は、都市と交通シナリオスタディプロジェクトのバージョンアップを図り、専門家のレクチャー、産学公民連携ワークショップ等を通じて、長期的な視点で未来の都市デザインを構想するため、「都市と交通プロジェクト・シナリオスタディワークショップ」を実施した。

² 表中の^①等は、産学公民の連携先を示している。産企業など、^②大学など、^③行政など、^④市民など。

| | 開催日 | 内 容 | 参加者数 |
|-----|-------|-----------------|------|
| 第1回 | 8月21日 | 未来の分かれ道に関するプレスト | 22人 |
| 第2回 | 9月11日 | シナリオ分割とネーミング | 21人 |
| 第3回 | 10月2日 | バックヒストリーを考える | 23人 |

また、全3回行ったワークショップでは、3班に分かれて20年後の未来のまちづくりの課題を議論し、それぞれの班からシナリオが提言された。

| 班 | ファシリテーター | シナリオ |
|---|--|----------------------------|
| ① | 塩見康博氏（立命館大学工学部准教授） | 域内のFace to Faceの交流が促進されるまち |
| ② | 金度源氏（立命館大学工学部准教授） | 南草津駅を拠点とした山と湖の交流 |
| ③ | 阿部俊彦氏（立命館大学工学部准教授） 武田史朗氏（UDCBK 副センター長、立命館大学工学部教授） | 新旧の多様なコミュニティが融合する共生都市 |

・南草津エリアまちづくり推進ビジョン(みなくさビジョン)

10年後の南草津エリアのまちづくりのコンセプトや基本方針を策定するために、草津市都市計画課とともに、南草津エリアまちづくり推進懇話会の事務局として参加した。8月から計5回の懇話会を開催し、南草津エリアにおけるまちづくりの現状や課題、今後のまちづくりのコンセプト、ゾーニング等について議論がなされた。今後、懇話会の検討を踏まえて、令和3年度にパブリックコメントを実施し、当該ビジョンを策定する予定。

| | 開催日 | 内 容 |
|-----|--------|---|
| 第1回 | 8月3日 | ・南草津エリアまちづくり推進ビジョン(みなくさビジョン)策定方針について ・南草津エリアの現況と課題について |
| 第2回 | 10月6日 | ・南草津エリアの課題について ・基本方針(案)およびゾーニング(案)について |
| 第3回 | 11月25日 | ・コンセプト等の整理について |
| 第4回 | 1月20日 | ・ビジョン素案(案)について |
| 第5回 | 3月23日 | ・パブコメ案について |

(d) 大学生が住むまちプロジェクト

上半期については、新型コロナウイルス感染症の拡大予防としてオープンスペースを利用した集客を抑制したことや、各大学で学生のキャンパス立ち入りが制限され

多くの講義が、対面授業からオンライン授業にシフトしたことから学生の活動が停滞した。10月以降については、順次キャンパスに学生が戻ってきたことにより、with/after コロナに対応した新しい模索が始まりつつある。

また、昨年度から取組んでいただいている「まち調べオープンプレゼンテーション」では、オンラインを活用し、様々な立場の方から学生の活動を見てもらい、一般参加者と意見交換する機会などを設けた。そのほか、環びわ湖・地域コンソーシアムに加盟する大学の学生が取組んだ SHIGA SDGs Studios の成果展示をオープンスペースで行った。今後、大学生が生き生きとキャンパスと地域で活動ができるよう、UDCBK としても事業の見直しや再構築を図る。

| | 実施日 | 内容 | 主催者 |
|---|------------------|---|----------------------|
| 1 | 12月4日 ～12月18日 | SHIGA SDGs Studios 成果展示会 | SHIGA SDGs Studios |
| 2 | 1月9日 | 立命館大学環境都市工学科2回生による まち調べオープンプレゼンテーション | 立命館大学理工学部 環境都市工学科 |

(e) アーバンデザインスクール

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業において、市民と専門家の間をとりもつ専門家、及び地域の専門家の育成を目的に「アーバンデザインスクール」を実施した。従来型の UDCBK 施設内での対面講義形式でのスクール開催は3密対策の観点から見直しせざるを得ず、本年度前期のスクール開催を断念した。下記のセミナーで試行的に行ったオンライン配信での経験を踏まえ、後期についてはオンライン配信を基本としたスクール開催を行うこととした。

テーマは「これからの健幸都市に向けて～with/after コロナのまちづくり～」とし、全5回シリーズで行った。

新型コロナウイルス感染症をきっかけとして生じた新しい時代において、どのようなまちづくりを行っていくべきかを異なる分野の専門家を講師に迎え、多角的な視点から「これからの健幸都市」を考えた。

| | 開催日 | 内容 | 参加者数 |
|-----------|--------|---|------------------------------------|
| 第1回 産学 | 10月23日 | テーマ：地域共生社会とまちづくり 講師：肥塚浩氏(立命館大学大学院経営管理研究科教授、同医療介護経営研究センター長) 錦戸気吹氏(株式会社レスコ経営企画) | 21人 内訳 オンライン 15人 UDCBK 6人 |
| 第2回 学 | 11月27日 | テーマ：医学を基礎とするまちづくり 講師：遊佐敏彦氏(奈良県立医科大学 MBT 研究所講師) | 11人 内訳 オンライン 10人 UDCBK 1人 |

| | | | |
|----------|--------|---|------------------------------------|
| 第3回 ⊙ | 12月12日 | テーマ：成熟時代の都市空間再編 講師：嘉名光市氏(大阪市立大学大学院工学研究科教授) | 11人 内訳 オンライン 10人 UDCBK 1人 |
| 第4回 ⊙ | 1月29日 | テーマ：道路占用緊急緩和とおおみやastreet テラス 講師：新津瞬氏(アーバンデザインセンター大宮 デザインリサーチャー) | 23人 内訳 オンライン 20人 UDCBK 3人 |
| 第5回 ⊙ | 2月26日 | テーマ：with/after コロナにおけるプレイスメイ キング～南草津の公共空間の利活用に向 けて～ 講師：園田聡氏(ハートビートプラン・認定NPO法 人日本都市計画家協会 理事) | 23人 内訳 オンライン 20人 UDCBK 3人 |

コーディネーター：及川清昭氏 UDCBK センター長(立命館大学理工学部教授)

(f) アーバンデザインセミナー

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業の4つの機能(学習・交流、調査研究、社会実験、情報発信)のうち、学習・交流機能として実施した。

| | 開催日 | 内 容 | 参加者数 |
|---------------|-------|--|------------------------------------|
| 第1回 ⊙ ⊙ | 7月3日 | テーマ：情報発信とまちづくり 講師：南部敏之氏(草津ファン☆プロ副代表) | 13人 内訳 オンライン 9人 UDCBK 4人 |
| 第2回 ⊙ | 7月8日 | テーマ：フューチャー・デザイン～持続可能な 未来に向けて 講師：原圭史郎氏(大阪大学大学院工学研究科 教授) 武田史朗氏(立命館大学理工学部教授) | 39人 内訳 オンライン 33人 UDCBK 6人 |
| 第3回 ⊙ | 7月11日 | テーマ：まちづくりシナリオメイキング 講師：佐藤滋氏(早稲田大学名誉教授) 阿部俊彦氏(立命館大学理工学部准教授) | 40人 内訳 オンライン 38人 UDCBK 2人 |
| 第4回 ⊙ ⊙ | 7月22日 | テーマ：CASE 時代の新都市デザイン～Beyond MaaS がまちを変える 講師：牧村和彦氏(計量計画研究所理事) 塩見康博氏(立命館大学理工学部准教授) | 33人 内訳 オンライン 26人 UDCBK 7人 |
| 第5回 ⊙ | 7月31日 | テーマ：未来における安全な都市を考える 講師：牧紀男氏(京都大学防災研究所教授) 金度源氏(立命館大学理工学部准教授) | 32人 内訳 オンライン 27人 UDCBK 5人 |

| | | | |
|-------------|--------|---|------------------------------------|
| 第6回 産公 | 9月18日 | テーマ：福祉から考えるまちづくり 講師：井上直美氏(草津市高穂地域包括支援センター主任介護支援専門員) 中西稔氏(草津市長寿いきがい課主査) | 25人 内訳 オンライン 21人 UDCBK 4人 |
| 第7回 学 | 10月9日 | テーマ：歩いて暮らせるまちのつくり方 講師：吉田哲氏(京都大学大学院工学研究科建築学専攻准教授) | 28人 内訳 オンライン 27人 UDCBK 1人 |
| 第8回 学 | 10月28日 | テーマ：将来のリスクを考えたまちづくり 講師：伊藤美樹子氏(滋賀医科大学公衆衛生看護学講座教授) | 14人 内訳 オンライン 13人 UDCBK 1人 |
| 第9回 学 | 10月14日 | テーマ：南草津の未来のまちづくりと交通 講師：塩見康博氏(立命館大学理工学部准教授) | 18人 内訳 オンライン 10人 UDCBK 8人 |
| 第10回 産学 | 12月4日 | テーマ：歴史的資産のある未来のまちの魅力 講師：宮村利典氏(近江八幡まちや倶楽部代表) | 14人 内訳 オンライン 10人 UDCBK 4人 |
| 第11回 学 | 1月13日 | テーマ：開かれたまちづくりの場アーバンデザインセンター 講師：前田英寿氏(芝浦工業大学建築学部教授) | 21人 内訳 オンライン 18人 UDCBK 3人 |
| 第12回 産学公 | 2月17日 | テーマ：「都市と交通プロジェクト」ワークショップ成果報告会 20年後の南草津の「まちと交通」の未来を考えよう 講師：武田史朗氏(UDCBK副センター長、立命館大学理工学部教授) 塩見康博氏(立命館大学理工学部准教授) 金度源氏(立命館大学理工学部准教授) 阿部俊彦氏(立命館大学理工学部准教授) | 30人 内訳 オンライン 23人 UDCBK 7人 |

※第2回から第5回までは「20年後の南草津の『まちと交通』の未来を考えよう」の全4回シリーズ

※第6回から第8回までは「シリーズ『健やかなまち』を考える」の全3回シリーズ

※第12回は都市と交通プロジェクトのワークショップの成果報告を兼ねて実施

(g) UDCBK 社会実験準備事業

大学を活かしたまちづくりの一環として、草津市をフィールドとし、大学との連携による研究成果の草津市への適用可能性や新たな技術や制度の社会的受容の条件等について市民とともに検証するため、市が設定したさまざまな分野にわたる7つのテー

マを設定し、市と包括協定を締結している大学（立命館大学、滋賀大学、成安造形大学、京都橘大学、滋賀県立大学、滋賀医科大学、龍谷大学）を対象に募集を行い、下記2大学から6件の事業を実施した。

【草津市社会実験準備事業一覧】

| 提案大学 | 概要 |
|-------|---|
| 立命館大学 | 住民参加の新しい公園づくり—南草津プリムタウンの公園中心型コミュニティデザインを目指すための社会実験 |
| 立命館大学 | 街を楽しみ使いこなせるパブリックスペース～with コロナ/after コロナの街の居場所のデザインを考える～ |
| 立命館大学 | 歴史的遺産に対する住民の態度変容を目的とした「歴史 AR マップ」の開発と評価 |
| 立命館大学 | 街道の補助線～歴史資産を繋ぎ、街道を顕在化させるアートワークとしての路面標示の実施～ |
| 立命館大学 | コロナ禍に対応する持続可能な食ビジネス地域支援システムの構築に向けた調査 |
| 滋賀大学 | 子育てを楽しめるまちづくりを実現するための育児ストレスサポートシステム開発に向けたニーズ調査 |

(h) オープンスペース利用状況

南草津駅周辺で働き、学び、生活する多様な層が利用できるパブリックスペースが不足している中で、UDCBK はそのモデルとなるような場を事業の一環として提供している。多様な市民が「産学公民が連携して未来の都市のデザインのために人と情報が集まる」UDCBK のオープンスペースを“まちの広場”として利用することで、そこが多様な市民にとっての“サードプレイス”となるよう引続き運営する。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止等の影響により、UDCBK のオープンスペースでの交流、学習、協議などの活用に変化が生じてきていることから、全国のUDCの動向も参考にしながら今後のあり方についてUDCBKの役割に照らしながら必要な検討を行った。

【UDCBK 利用者数】

| | | | |
|----------------------------|--------|-------------|-------------------------|
| 令和2(2020)年4月 ～令和3(2021)年3月 | | | |
| オープンスペース利用者 | 5,361人 | (昨年度9,250人) | |
| イベント参加者 | 585人 | (昨年度973人) | 1日平均 28.86人 (昨年度45.84人) |

3 情報発信にかかると活動

(1) 調査研究報告書の配付

2019(令和元)年度調査研究の報告書を作成し、以下のとおり配付した。また、調査研究報告会については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止し、報告書の配付対応のみとした。

- ・ 庁内各課及び副部長以上
- ・ 草津市議会議員
- ・ 自治体シンクタンク等 14 箇所
- ・ 包括協定 7 大学 1 高等学校
- ・ 市立図書館、県立図書館



(2) ホームページ

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ(UDCBK)の事業活動や、2019(令和元)年度調査研究報告書等を市ホームページに掲載した。また、UDCBK 事業については、Facebook などでも随時情報発信を行った。



4 その他の活動

(1) 自治体シンクタンク研究交流会議

東京都港区で開催予定だった「第8回自治体シンクタンク研究交流会議」が、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、次年度に開催延期された。

(2) 幸せリーグ

東京都荒川区が設立した「住民の幸福実感向上を目指す基礎自治体連合(通称：幸せリーグ)」に参加(2020(令和2)年8月現在、89自治体が参加)しているが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、予定されていた総会や各グループでの実務者会議等が開催できなかった。

(3) 視察の受け入れ

1 団体の視察を受け入れ、UDCBK のプラットフォーム機能等について説明を行った。

| | 受け入れ日 | 都道府県 | 視 察 団 体 | 受け入れ先 |
|---|-------|------|----------|-------|
| 1 | 3月11日 | 大阪府 | 吹田市計画調整室 | UDCBK |

(4) 外部評価の実施

草津未来研究所の4年間<2016(平成28)年度~2019(令和元)年度>の活動に対して、内部評価および外部評価を実施し、今後の基本的方向性を協議した。

(5) 立命館大学情報理工学部に移転に関する対応

立命館大学びわこ・くさつキャンパスにある情報理工学部の大阪いばらきキャンパスへの移転発表がなされたことから、滋賀県、草津市、立命館大学の3者トップによる意見交換会等を行った。



Ⅲ 運営体制

【スタッフ】

| 職名 | 氏名 | 役職 |
|-----------------|--------|--------------------|
| 所長 | 松原 豊彦 | 立命館大学食マネジメント学部教授 |
| 相談役 | 戸所 隆 | 高崎経済大学名誉教授 |
| 顧問 | 肥塚 浩 | 立命館大学大学院経営管理研究科長 |
| 副所長 | 小沢 道紀 | 立命館大学食マネジメント学部教授 |
| 副所長 | 堀田 智恵子 | 草津市総合政策部理事 |
| 調整員 | 本村 廣司 | 草津市産学公民連携調整員 |
| 主任研究員 | 林 裕史 | 草津市総合政策部草津未来研究所参事 |
| UDCBK | 中瀬 明美 | 草津市総合政策部草津未来研究所参事 |
| 研究員 | 橋本 千秋 | 草津市総合政策部草津未来研究所主査 |
| UDCBK | 坂居 雅史 | 草津市総合政策部草津未来研究所専門員 |
| 会計年度任用職員 | 林沼 敏弘 | 草津市総合政策部草津未来研究所 |
| 会計年度任用職員(UDCBK) | 辻 裕貴 | 草津市総合政策部草津未来研究所 |
| 会計年度任用職員(UDCBK) | 田中 清子 | 草津市総合政策部草津未来研究所 |
| 会計年度任用職員(UDCBK) | 田北 依子 | 草津市総合政策部草津未来研究所 |

(2021年3月末現在)

【運営会議の開催】

| | 開催日 | 開催内容 |
|-----|------------------|--|
| 第1回 | 2020(令和2)年 4月22日 | <ul style="list-style-type: none"> ・2019(令和元)年度調査研究・事業報告について ・2020(令和2)年度事業計画・調査研究について ・内部評価報告書(案)について ・外部評価委員と外部評価について |
| 第2回 | 2020(令和2)年11月11日 | <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の調査研究、UDCBKの進捗状況報告 ・外部評価の実施および意見等について ・都市政策懇話会の検討案について |
| 第3回 | 2021(令和3)年 1月13日 | <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の調査研究、UDCBKの進捗状況報告 ・今後の基本的方向性(案)について |
| 第4回 | 2021(令和3)年 2月19日 | <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の調査研究、UDCBKの進捗状況報告 ・2021(令和3)年度予算内示状況について ・内部評価および外部評価の実施に伴う今後の基本的方向性について ・来年度の調査研究テーマ案について |

草津市総合政策部草津未来研究所

令和2年度事業報告書

2021年3月 発行

草津市 草津未来研究所

〒525-8588 滋賀県草津市草津三丁目13番30号

TEL 077-561-6009 FAX 077-561-2489

E-Mail kusatsumirai@city.kusatsu.lg.jp

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ（UDCBK）

〒525-0059 滋賀県草津市野路1丁目13番36号 西友南草津店1階

TEL 077-562-3932 FAX 077-562-9323